

稲作情報

Vol. 7 平成25年9月6日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先：本吉農業改良普及センター

TEL：0226-29-6044

ホームページ：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/motoyosinoukai.html>



刈取り適期は、9月下旬頃になる見込みです

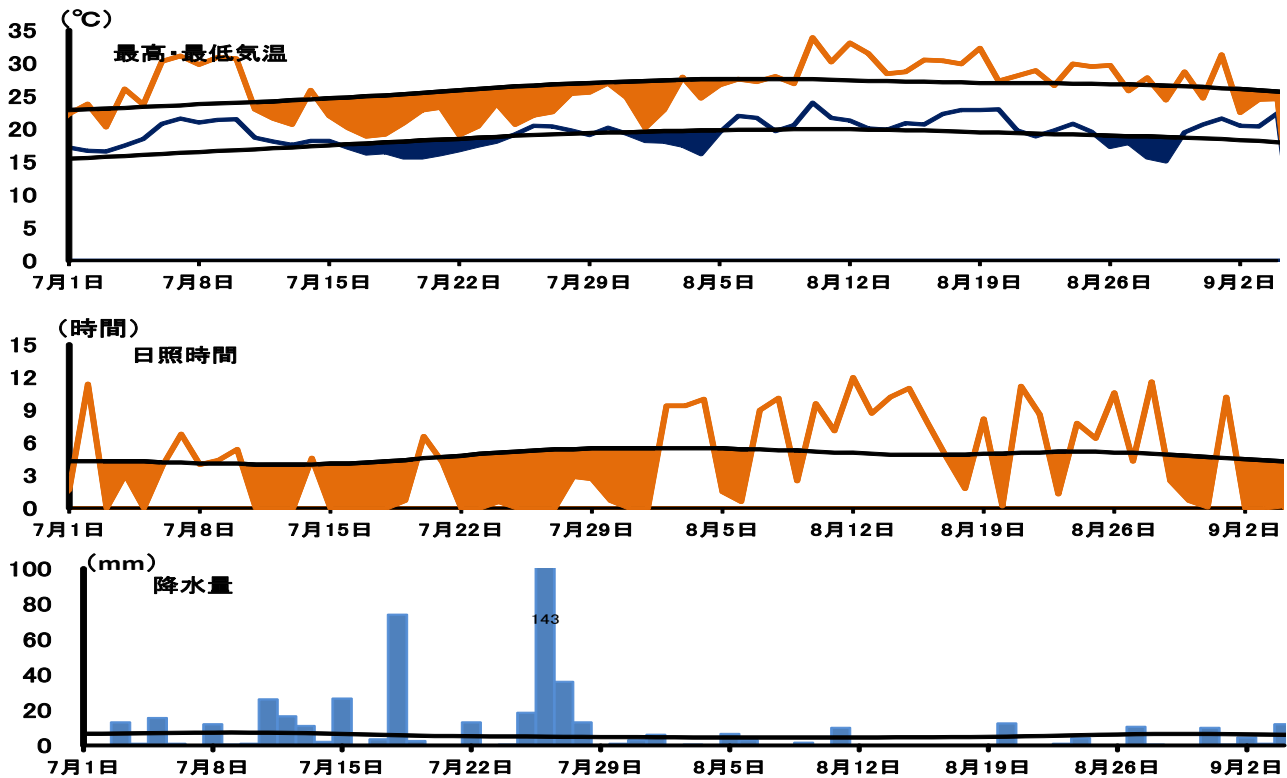


図1 気象経過図(気仙沼アメダス:7/1~9/4)

8月の気象経過

8月中旬以降は高温多照

- 気 温：第2～4半旬は、平年を上回る。特に第4半旬は最高・最低気温ともに平年を大きく上回る
- 日照時間：8月第4・6半旬を除き、平年を上回る。特に第3・5半旬は、平年を大きく上回る。
- 降 水 量：8月第2・5半旬は平年の20%程度、その他は平年の50%と少照で経過

表1 半旬別気象表(気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H25	平年	差	H25	平年	差	H25	平年	差	H25	平年	比	H25	平年	比
8月1半旬	20.6	23.0	-2.4	24.5	27.5	-3.0	17.9	19.7	-1.8	30.3	27.5	110%	13.0	22.7	57%
8月2半旬	24.6	23.2	1.4	28.7	27.6	1.1	21.6	19.9	1.7	31.8	26.6	120%	4.5	22.5	20%
8月3半旬	24.4	23.1	1.3	30.4	27.3	3.1	20.8	19.9	0.9	49.0	25.0	136%	10.0	22.7	44%
8月4半旬	25.4	22.8	2.6	30.1	27.1	3.0	22.4	19.6	2.8	22.7	24.7	92%	12.5	24.0	52%
8月5半旬	23.4	22.6	0.8	28.6	27.0	1.6	19.8	19.2	0.6	35.3	25.8	137%	5.0	28.0	18%
8月6半旬	21.9	22.2	-0.3	26.9	26.6	0.3	17.7	18.8	-1.1	29.8	29.6	101%	21.0	38.6	54%

生育状況

出穂期以降の高温により、登熟は良好

7月下旬までは、低温により生育はやや遅れていましたが、8月以降の高温により生育は進み、管内平均の出穂期は、平年と同じ8月11日でした。

表2 管内の出穂状況

	出穂始期	出穂期	穂揃期
平成25年	8月8日	8月11日	8月15日
前年	8月8日	8月10日	8月13日
平年	8月7日	8月11日	8月15日
前年差	0日	+1日	+2日
平年差	+1日	0日	0日

※出穂始期、出穂期、穂揃期は、それぞれ水稻作付見込面積の5%、50%、95%以上が出穂した日です。

生育調査ほの出穂後25日調査では、調査地点による㎡当たり籾数の差はみられますが、沈下粒数歩合は平年より高く、登熟は順調に進んでいます。

表3 出穂後25日調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		出穂期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	1穂籾数 (粒)	㎡籾数 (百粒)	沈下粒数 歩合 (%)	主稈 葉数 (枚)	止葉 葉色 (SPAD値)
生育調査ほ	平成25年	8月11日	74.8	18.1	453	56.0	254	94.9	12.1	25.8
	前年	8月7日	72.8	18.1	479	55.5	266	96.2	12.6	25.3
	平年	8月9日	75.8	17.2	530	54.9	288	92.2	12.6	26.8
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月12日)	前年比(差)	+4日	103	100	95	101	95	-1.3	-0.5	102
	平年比(差)	+2日	99	105	85	102	88	2.7	-0.5	96
生育調査ほ	平成25年	8月9日	76.8	19.2	442	69.2	306	90.6	12.2	24.1
	前年	8月6日	72.0	17.8	403	67.6	272	90.6	13.0	24.5
	平年	8月7日	73.7	17.0	407	68.4	278	88.6	13.3	25.6
南三陸町入谷 ササニシキ (5月15日)	前年比(差)	+3日	107	108	110	102	113	0.0	-0.8	98
	平年比(差)	+2日	104	113	109	101	110	2.0	-1.1	94

注：平年値は過去7カ年(平18～24年)のうち最大値年(平20)と最小値年(平18)を除いた5カ年の平均値

また、東北農政局が8月30日に発表した8月15日現在における作柄概況によると、宮城県東部の作柄は「平年並み」で、穂数は「少ない」、1穂当たり籾数は「やや多い」、全籾数は「やや少ない」、登熟の良否は「やや良」となっています。

表4 平成25年産水稻の8月15日現在の作柄概況(東北農政局発表)

	作柄の良否	穂数の多少	1穂当たり 籾数の多少	全籾数の 多少	登熟の良否
宮城県	平年並み	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
東部	平年並み	少ない	やや多い	やや少ない	やや良

刈取り適期の判定

刈遅れに注意！

刈取り時期が早すぎると青米や未熟粒が多くなり収量が低下するとともに、収穫機械や乾燥機の能率が悪くなります。また、刈取り時期が遅すぎると着色粒や胴割れ粒の割合が増加し、高温多湿条件下では穂発芽等の被害粒が発生します。

そこで、良質米に仕上げるための刈取適期の目安と収穫・乾燥作業について、そのポイントを紹介します。

① 籾の熟色と穂軸の色

籾の80～90%程度が成熟して黄色となり、穂軸が先端から3分の1程度まで黄変していれば、刈取り適期に達したと判断できます。すべての籾が黄色になるまで待つと、刈遅れとなり玄米品質が低下するので、穂の下部にわずかに緑色の籾が残っている程度でも刈取りを開始してください。



図2 刈取り適期の熟色

② 出穂後の日数による目安

主要品種の出穂後の日数による刈取り適期の目安は、表5のとおりです。

表5 出穂後の日数による刈取り適期の目安

出穂後日数	品種名
40～45日	ヒメノモチ ひとめぼれ まなむすめ
45～50日	ササニシキ みやこがねもち

③ 出穂後の積算気温による目安

出穂期以降の平均気温を積算して予測する場合、「ひとめぼれ」では940℃に達すると収穫が可能となります。概ね1,000℃前後で品質が最も高くなり、以後品質は低下していきます。

④ 今年の刈取り適期

積算平均気温からみた刈取り適期予測は、表6のとおりです。8月12日に収穫したほ場の場合、9月25日より刈取りが可能と予測されます。刈取り始期から終期までは8～10日間程度ありますが、計画的に作業を行い刈遅れにならないようにしましょう。

表6 出穂後の積算気温からみた刈取り適期の目安(気仙沼アメダス:9月6日現在)

	出穂後の積算気温	出穂期							
		8月6日	8月8日	8月10日	8月12日	8月14日	8月16日	8月18日	8月20日
刈取り早限	940℃	9月17日	9月19日	9月22日	9月25日	9月28日	10月1日	10月4日	10月7日
刈取り適期	1,000℃	9月20日	9月23日	9月26日	9月29日	10月2日	10月5日	10月8日	10月11日
刈取り晚限	1,100℃	9月25日	9月27日	10月1日	10月4日	10月7日	10月10日	10月14日	10月18日

※品種:ひとめぼれ 9月5日まではアメダス実測値を使用, 9月6日以降は平年値を使用して予測

※刈取り早限～刈取り晚限は、良質粒歩合75%以上を確保できる期間

刈取り・乾燥時の留意点

①刈取り作業

○コンバインの場合

- ・ 籾水分が高いと籾や玄米が損傷し、また乾燥時間も多くなるので、籾水分は25%以下を目安に刈取りを行きましょう。
- ・ 収穫作業に適する時間帯は午前10時～午後4時頃です。雨上がりや朝露のある状態での刈取りは避けましょう。
- ・ 循環式乾燥機では穀温40℃、毎時乾燥減率0.8%を標準に乾燥を行ってください。

○バインダーの場合

- ・ 籾水分28%程度の比較的高い条件でも収穫が可能です。
- ・ 架掛け等の作業に時間がかかるので、その日のうちに作業が完了できるよう計画的に刈取りを行きましょう。
- ・ 自然乾燥に要する日数は概ね20日程度ですが、玄米水分15%を目標に日数を調整してください。
- ・ 秋雨が多いと穂発芽や胴割れが発生し品質が低下しやすいので、雨が多い場合は籾水分が18%程度になったら脱穀し、乾燥機で仕上げ乾燥を行ってください。

②乾燥・調製作業

- ・ 収穫した籾を長時間放置すると発熱して変質米の原因となるので、刈取り後は速やかに乾燥しましょう。
- ・ 倒伏した稲や未熟粒の多い稲などを機械乾燥する場合は、二段乾燥(下記を参照)を行い水分ムラや胴割米の発生を抑えましょう。
- ・ 火力乾燥における過乾燥は、胴割米の発生・碎粒の増加・光沢の低下等品質が悪くなります。こまめに籾水分の測定を行い過乾燥を防ぎましょう。

高水分籾乾燥時の注意点

未熟粒や青米が多く混入していると全体の水分が高く、水分のバラツキも大きくなります。このような場合には、**二段乾燥**を励行するなど、特段の注意が必要です。

※二段乾燥

高水分籾等を乾燥する際に籾水分が18%程度になったところで火力乾燥を一旦停止し、一定時間通風乾燥して貯留します。精籾と青籾や未熟粒の水分差が貯留中に籾間移動で縮まり、20～30時間後に安定したところで二次乾燥を行います。二次乾燥終了後は、余熱により0.7%程度乾燥が進む場合があるので、それを見込んで早めに乾燥を停止してください。

農作業事故を防ぎましょう！

「1人ひとりが主役 広げよう！安全確認」

9月15日から11月30日まで、秋の農作業安全運動実施中です。
作業中はもちろんのこと、移動中も安全第一を心がけましょう。

米の放射性物質調査調査の実施について

平成25年産米の安全性を確認するため、国・市町村及び生産者団体等と連携し、放射性物質の検査を実施します。

農家の皆様には、県が行う旧市町村ごとの調査結果が出るまで、米の出荷・販売・譲渡及び贈答をしないで下さい。

- 旧市町村ごとに検査を実施しますが、安全性が確認できるまで、米の出荷・販売・譲渡及び贈答をしないようにしてください。
→出荷自粛が解除されるまで、収穫した米は、旧市町村ごとに保管してください。
- 出荷自粛の解除は、検査結果に基づき、旧市町村ごとに実施します。
→検査結果は速やかに県のホームページ上において公表するなど、速やかにお知らせします。

米の放射性物質検査（収穫後の玄米）

※旧市町村によって検査点数が違います。

